潮見小校長室だより

151周年 2025.12.15 №51
松山市立潮見小学校
校長　池川　仁

地域とのつながりを生かして8

11月28日（金）に３年生が、近隣の伊予柑園の見学に行きました。総合的な学習の時間に、地域のよさを見付ける単元があります。また、社会科では農家の仕事について学習しました。それらと関係付けながら、潮見地区の伊予柑農園を見学しました。見学後の子どもたちの感想をお伝えします。

- 今日、私は伊予柑園見学に行きました。伊予柑園で栽培していたものは、最初はごつごつしていたけれど、ある伊予柑は、つるつるしていておいしくなっているのを宮内さんが見付けて、宮内伊予柑ができたそうです。大谷伊予柑はきれいだったけれど、傷みやすく出荷する頃には傷んでしまったそうです。そして、木を作るまでに３、４年かかるそうです。木は、３ｍ間をあけて植えていたようです。伊予柑を育てている人は、植えた木に伊予柑が実った時が一番うれしそうです。見学に行って勉強になりました。

- 私は、今日、平田の伊予柑園の見学に行きました。はじめに、下の方にある木を見て写真を撮りました。上の方にはみかんの木がたくさんあって、モノレールやスプリンクラーもありました。みかんの木は教科書で見た通り、山の斜面にありました。今回、お話をしてくださった方によると、木を作るまでに３年から４年かかるそうで、とても大変だなと思いました。一番人気は、甘平と紅まどんなだそうです。給食に出るときは、今日のことを思い出して感謝して食べたいです。

- 私は、伊予柑農園で宮内伊予柑のことについていろいろと教えてもらいました。最初に、宮内伊予柑が初めてできた木について教えてもらいました。元々は、皮がごつごつしていた伊予柑だったけれど、突然変異で今のつるつるの伊予柑になりました。さらにつるつるになった大谷伊予柑もあります。伊予柑の木は、成長するのに３、４年かかり、４、５年で実がなるそうです。木を増やすには、木の芽を切って植木鉢に植えていきます。宮内伊予柑の木に実がなったのは昭和 30 年（1955 年）で、今から 70 年ほど前だそうです。宮内伊予柑の木を見ることができてうれしかったです。

子どもたちの感想に出てきた「大谷伊予柑」は、宮内伊予柑の枝変わりとして1972年、当時の北宇和郡吉田町で生まれたそうです。伊予柑の品種を一つ取り上げても様々な背景があることがよく分かります。偶然見付けた品種であっても、それをさらに商品として育て、広げることがいかに大変であるかということが、子どもたちなりに分かったのではないかと思います。探求心や日々の努力の大切さも感じられます。柑橘王国の愛媛県。潮見地区に「宮内伊予柑」という一大ブランドがあるということは何とも誇らしいことです。